



11. Router でルーティング

Router とは

Router は **Express** のルーティングを簡単に作成できる機能です。今までは、ルーティングは、**express()** で生成したオブジェクトの **HTTP** メソッドでアクセスしました。

```
const app = express();
app.get("/", (req, res) => {
  //処理
});

app.get("/profile", (req, res) => {
  //処理
});

app.post('/auth', (req, res) => {
  //処理
})
```

メインファイルにルーティングを記述すると、ルーティングが増えるためプログラムが見つづらくなります。そこで **Router** を利用すると、別ファイルで管理することができます。

プロジェクトの作成

ファイル構成

```
├─ .env
├─ node_modules
├─ package-lock.json
├─ package.json
├─ routes.js
└─ server.js
```

Router によるルーティング

`routes.js` を作成し、ルーティングを記述します。内容は前のサンプルのルーティングと同じです。

```
const express = require('express')
const router = express.Router()

router.get('/', (req, res) => {
  res.send('Hello Express Router!!')
})

router.get("/profile", (req, res) => {
  res.send("This is Profile page.");
})

router.post('/auth', (req, res) => {
  const login_name = req.body.login_name;
  const password = req.body.password;

  let message = 'ログインできませんでした';
  if (login_name == process.env.LOGIN_NAME && password == process.env.PASSWORD) {
    message = 'ログインしました';
  }
  res.send(message);
})

module.exports = router
```

外部モジュールの読み込み

外部モジュールとして利用できるように、`module.exports` を利用します。モジュール名は、`express.Router()` で作成した名前に合わせます。

```
module.exports = router
```

メインプログラム

`server.js` で `routes.js` を読み込み、ミドルウェアで処理します。もともと記述したルーティング処理は削除します。

```
const express = require('express')
// routes.js ファイルの読み込み
const routes = require('./routes')
```

```
require('dotenv').config()
const host = process.env.HOST
const port = process.env.PORT

const app = express()

app.use(express.urlencoded({ extended: true }))
app.use(express.static(__dirname + '/public'))

// Router をミドルウェアで処理
app.use(routes)

app.listen(port, host, () => {
  console.log(`Server listen: http://${host}:${port}`)
})
```

ルーティング確認

サーバを起動して、各 URL がルーティングできるか確認します。

```
% node server
```

ホーム

<http://localhost:3000/>

Hello Express Router!!

プロフィール

<http://localhost:3000/profile>

This is Profile page.

ログインページからポスト

<http://localhost:3000/login.html>

ログイン名

パスワード

ログインしました

パラメータの利用

ルーティングでパラメータを利用するには、HTTPメソッド関数のパスを、パス:パラメータ名で記述します。

```
router.HTTPメソッド("パス:パラメータ名", (req, res) => {  
  
}
```

パラメータの取得は `req.params` でパラメータ名を指定します。

```
値 = req.params.パラメータ名
```

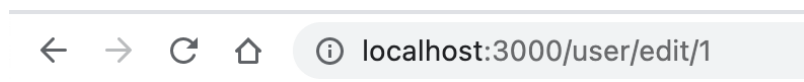
パラメータ id で処理

`routes.js` に `/user/edit/:id` ルーティングを追加します。`:id` の部分は任意の値で処理できます。

```
router.get("/user/edit/:id", (req, res) => {  
  const id = req.params.id  
  const message = 'ユーザID: ' + id  
  res.send(message);  
})
```

ルーティングの確認

サーバを再起動します。 <http://localhost:3000/user/edit/1> にアクセスして確認してみましょう。※
数値部分は任意



user edit page: id =1

演習

問題1

`item.js` を作成して商品データを用意します。 `/item/:id` でルーティング (:id は任意の数値) を追加して、指定した ID で商品情報を表示してみましょう。

`item.js`

```
exports.values = {  
  1: { name: 'コーヒー', price: 150 },  
  2: { name: '紅茶', price: 180 },  
  3: { name: 'ほうじ茶', price: 100 },  
}
```

当サイトの教材をはじめとするコンテンツ（テキスト、画像等）の無断転載・無断使用を固く禁じます。これらのコンテンツについて権利者の許可なく複製、転用等する事は法律で禁止されています。尚、当ウェブサイトの内容をWeb、雑誌、書籍等へ転載、掲載する場合は「ロジコヤ」までご連絡ください。